

アルミボディならではの良さが光る 最強の サウンドパフォーマンス

骨格を表面に出したデザインがクール。各パーツもアルミボディにベストマッチしたものを吟味している。(写真は0101Z)

EVO
alumi evolution®

1960年代、日本に空前のエレキ・ブームが到来し、若者たちがそのサウンドに酔いしれた。当時、それを機にエレキギターを弾き始めた人も多い。そして、身近な楽器となったエレキギターの人気は定着し、日本でもスーパーギタリストと呼ばれる名手がつぎつぎと誕生した。また、エレキギターはモノとしての魅力にあふれ、コレクターの間では名器のビンテージ品が高額で取引されるなど、その世界は奥深い。

池部楽器店のアルミボディのギター「EVO(イーボ)」は、まさしくエポックメイキングな逸品だ。アルミニウムを使ったギターは1970年代からあり、前身となったモデルはアルミ鋳造1ピースで中は空洞となっている。しかし、「EVO」のボディは6061アルミ合金の単板から削り出して作られ、骨格構造(0101Z)と、表面は埋まっていて裏側が開いているオープンバック構造(0202Z、0303Z)が製造されている。このスタイルは音や振動が裏から適度に放出されるため、余計な反響が発生しにくくなる。また、骨格はボディの中心部から外側に向けて放射状に伸びたデザインになっているが、これは単に軽量化のためだけに穴を開けているのではなく、この部分も共振させることで音のパワーを調整するという効果があるからだ。さらに、通常のギターでは弾くポジションにより音の



切削されたボディは、ヘアライン処理を経てアルマイト加工が施される。ネックやピックアップなどのパーツの組み込みも含めすべて国内で製造。高度な技術が要求される。



ボディの裏側は機材が入っている場所に蓋がされるほかは、骨格構造になっている。

反応がよくない場合があるが、「EVO」はそれが少なく微妙な音の表現も出しやすい。有名アーティストの意見も多く取り入れて完成された「EVO」は、美しい音や響きを実現し、アルミ削り出しボディならではの特性を最大限に活かしたギターなのだ。その音程は正確なためデジタル向きで、パソコンを使って音を出したり、録音をする人たちにも絶大な人気がある。ネーミングの由来はロゴにも入っている“alumi-evolution”だが、その名の通り、「EVO」はこれからもさまざまなニーズに合わせて進化を続けていくだろう。

(取材協力：池部楽器店グランディ&ジャンブル)